

奄美の出稼ぎ・移民を克明に

「南島ポートビープル」発刊

奄美市の原井一郎さん

奄美市名瀬のジャーナリスト原井一郎さんの「南島ポートビープル 奄美近現代―出稼ぎ・移民考」(海風社)が、このほど発刊された。写真。多くの資料と当時を知る人々への取材で移民と移民先における偏見や差別、迫害を明らかにし、今日の外国人労働者の差別についても論じる。

明治維新とヤンチュを描く「砂糖地獄の連鎖」、諏訪瀬開拓の父・藤井富伝(笠利村出身)などが登場する「近代のとは口で」のほか、「産業革命と女工」、「阪神と奄美人」、「海外移民と犠牲」、「現代の都市と奄美人」など10章で構成。奄美人の集住研究で知られる東海大の中西雄一准教授と著者の対談「流民化のインパクトと国際化時代」も収録した。対談で著者は、明治

の与論島民の口之津移住で「過重労働や迫害など精神的痛手を負わせた企業責任について法的に賠償を問うてしめるべきだ」と指摘。

「奄美の先人たちの苦惱を語り継ぎ、世に問うことこそ偏見や差別のない融和社会を築く一歩になる」と述べ

A5判、318頁、2400円(税別)。問い合わせ先は電話06(6541)1807海風社。



「海外移民と犠牲」、「現代の都市と奄美人」など10章で構成。奄美人の集住研究で知られる東海大の中西雄一准教授と著者の対談「流民化のインパクトと国際化時代」も収録した。対談で著者は、明治